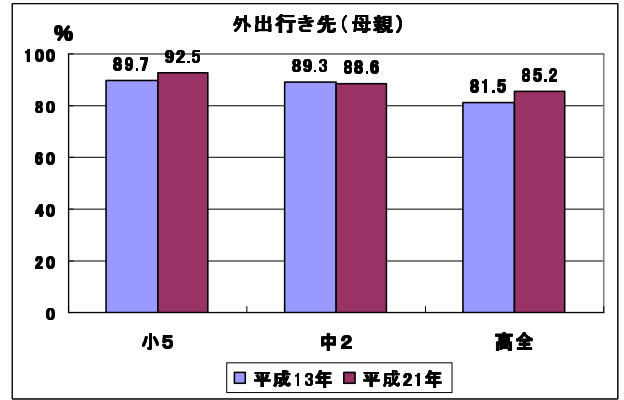
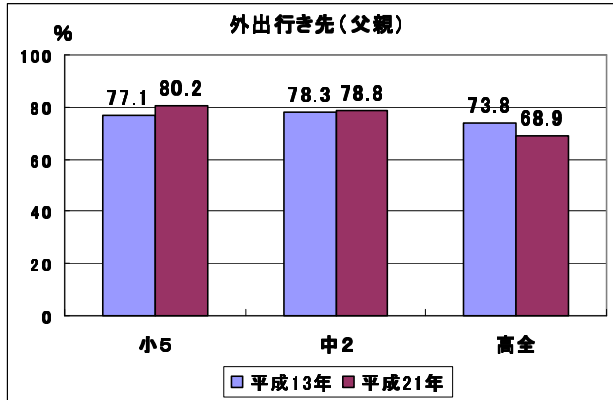


2 保護者の意識について

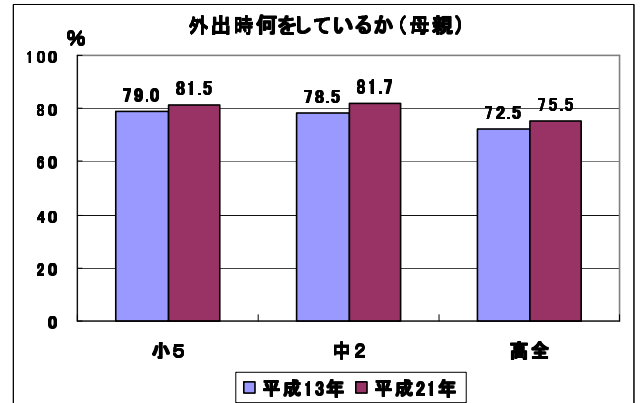
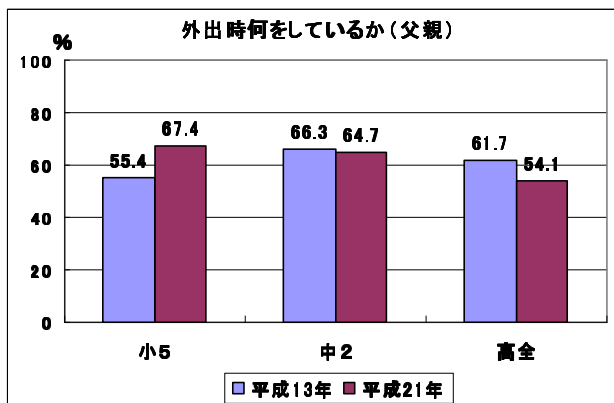
(1) 養育態度の状況

「我が子の外出状況」について、自分の子どもの行き先や行動を把握していると答えた割合は父親より母親の方が高い結果を示しました。

問「子どもが外出する時、その行き先が分かっていると思いますか」⇒ 回答「思う」

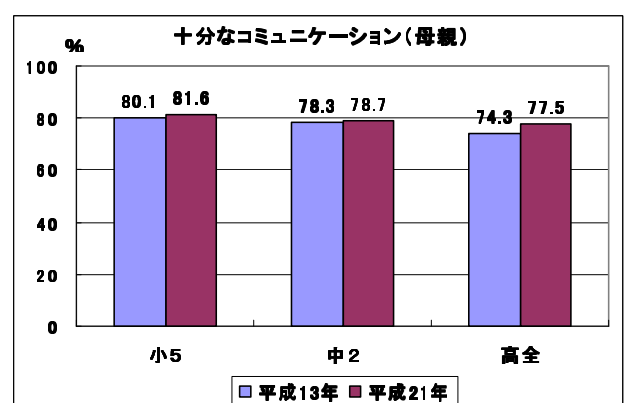
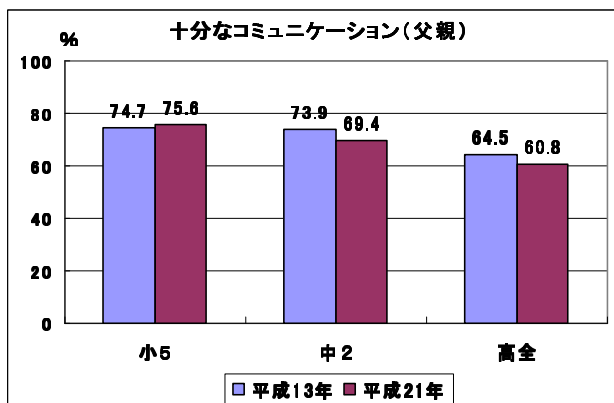


問「子どもが外出する時、子どもが何をしているか分かっていると思いますか」⇒ 回答「思う」



「我が子とのコミュニケーション」について、「できている」と肯定的に答えた割合は父親より母親の方が高い割合を示しました。これらの養育態度に関する設問については、前回調査と比較すると、大きな変化は見られませんでした。

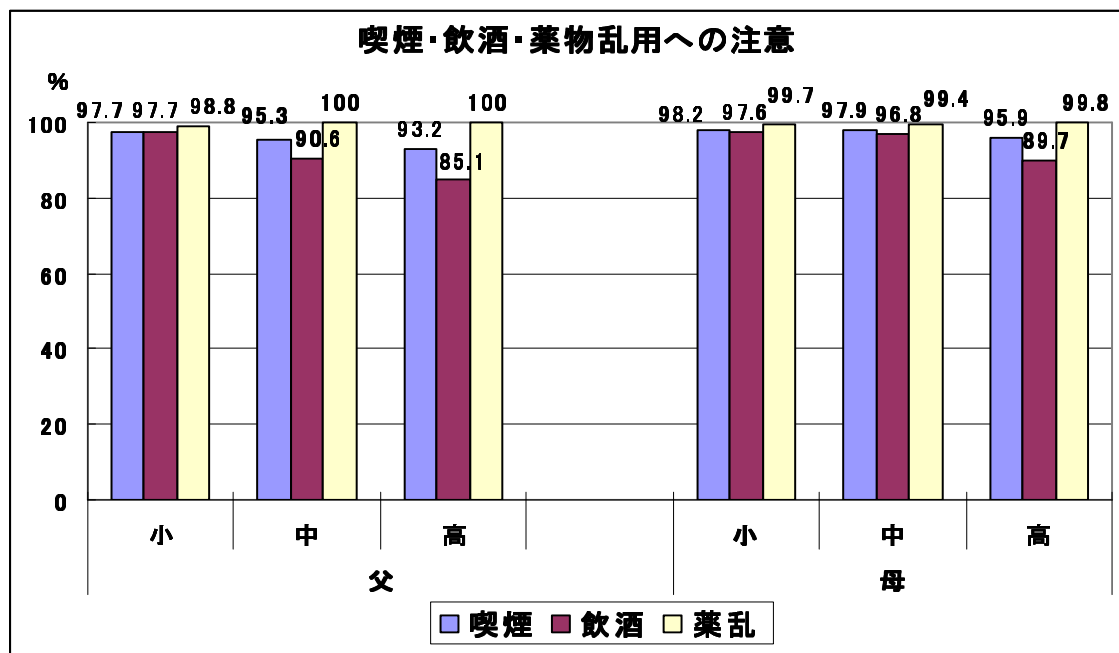
問「子どもと十分にコミュニケーションができていると思いますか」⇒ 回答「思う」



(2) 喫煙、飲酒、薬物乱用に関する意識

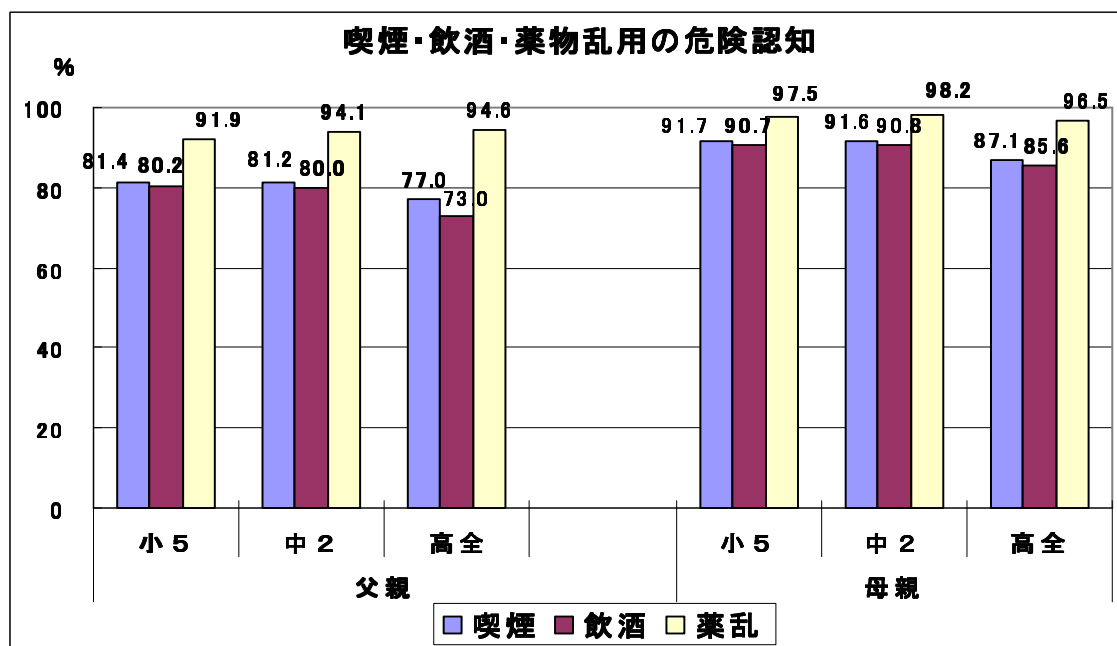
「我が子の喫煙、飲酒、薬物乱用への注意」について、「注意する」という肯定的な回答は、飲酒で前回調査に比べて減少したものの、依然として高い割合を示しました。また、薬物乱用への注意は、前回調査とともにほとんどの保護者が「注意する」と答えており、喫煙及び飲酒については、今回の方が良好な傾向が示されました。

問「あなたの子どもが喫煙していたら、飲酒していたら、薬物を使用していたらあなたは注意すると思いますか」⇒ 回答「思う」



「青少年の喫煙、飲酒、薬物乱用に関する危険認知」（実態の深刻さ）について、特に薬物乱用の実態について深刻に考えていることがうかがえます。

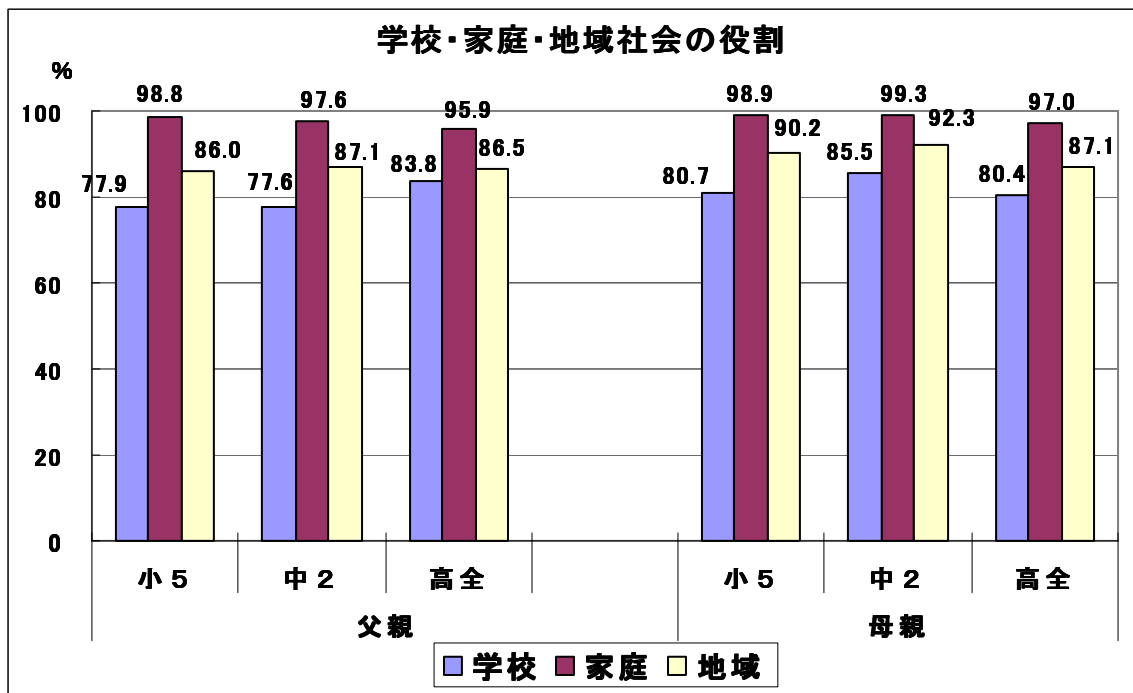
問「最近の青少年における喫煙、飲酒、薬物乱用の実態を深刻に思いますか」⇒ 回答「思う」



薬物乱用を防止する上での学校、家庭、地域社会の役割について聞いたところ、父母ともに全ての校種において「家庭」の役割が大きいと思っている割合が最も大きく、95%以上となっています。これは、喫煙防止、飲酒防止に関しても同様の傾向を示しました。

保護者は、学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たすことの大切さを感じていることがうかがえます。

問「青少年の薬物乱用を防止する上で「学校」「家庭」「警察・保健所・町内会などの地域社会」の役割は大きいと思いますか」⇒ 回答「思う」



喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育を推進する上で、家庭との連携は必要不可欠です。

保護者の意識をさらに高めるために、薬物乱用防止教室や学校保健委員会などを活用して、学校から積極的に情報提供することが必要です。